

よろしくお願ひします： 新任 あいさつ



事務局長
中野 英二

平成21年4月に赴任してしました中野です。前任地は浜松労災病院です。どうぞ宜しくお願い致します。

転勤族の私ですが、実は釧路管内生まれの釧路管内育ち(？)(親は管内転勤族だったので庶路、厚岸、釧路など転々...)です。私にとって釧路労災病院は社会人生活のスタートの場でもあり、又、今まで三十数年間続けてこられた病院事務職員の基礎を叩き込んでくれた有難い場でもあります。顧みますと、昭和48年9月に当時の特殊法人労働福祉事業団(現・独立行政法人労働者健康福祉機構)に採用され釧路労災病院勤務が出发点であり平成4年4月の事業団本部・東京(現・機構本部・川崎)への転任命令により転勤族のスタートを切り、その後、美唄労災病院(現・道央せき損センター)、中部労災病院、関東労災病院、筑豊労災病院、浜松労災病院と三度の機構本部を含めると8ヶ所で勤務してきました。それぞれの勤務地でそれぞれの経験と多くの思い出を作ることができました。・今まで関わって頂いた多くの方々に感謝しているところです。

ありました。が「地域医療、勤労者医療の推進に係る環境整備など」に微力ながら全力を傾注する覚悟で着任したところですが、以前(約20年前)勤務していた当時とは、当院を取り巻く医療環境は大きく変わっていました。皆様ご存知のとおり平成16年度から新しい「卒後臨床制度」がスタートし、研修医が自由に研修病院を選べることから地域偏在(条件の整った都会志向)が起り大学医局は医師不足に陥り、地方の病院への医師派遣がままならなくなり、当院もその影響を避けられず平成19年度は産婦人科・小児科の釧路日赤病院への集約、平成20年度は循環器科の釧路市立病院への集約など当院にとっては開院以来、経験の無い厳しい事態に直面し、入院病床数500床が稼働450床にて運用せざるを得ない状態に陥ったところ。患者の皆様はじめ地域の皆様には「不便とご心配をお掛けしているところ。」「しかしながら、厳しい医療環境が続く中、平成21年2月に「地域がん診療連携拠点病院」の認定を受け、又、この10月には循環器科常勤医師の確保により当面外来のみですが再開の目途が立つなど「地域医療への貢献」を合い言葉に職員一丸となり日々奮闘しているところです。

羽田には午後6時過ぎに到着し、疲れた体を引きずり那覇空港行ききの便のキャンセル待ちに並び何とかチケットを手に入れ、安堵して遅い遅い昼食を摂ろうとした時、再び恐怖の発着遅れの放送がかかりました。「千歳空港からの飛行機の到着が遅れており、機材繰りがつかない為に那覇行き135便は1時間30分遅れ21時30分発に変更になります(ゲゲ)」。私は「初めから諦めて千歳空港から釧路に戻っていい良かった」と心は折れ、魂は空港のロビーにへたり込んでしまいました。それからマラソンの為に一週間我慢したビールを売店で買い、「沖繩に着いたところで真夜中だよ、体調は最悪、初めてのフルマラソンなのに普通に通に沖繩に着いて体調万全で出走出来るか分からなかった。もうダメだ、ダメだ、ダメだ。」「と床に座り込んでビールをガブ飲みして時間を潰していました。結局、離陸は再び遅れ羽田を離陸したのは午後10時、那覇空港に着いたのは午前0時30分、一人の為にツアー旅行会社の人が待っていてくれたのが救いでしたが、沖繩市胡屋のホテルに着きシャワーを浴びてベッドに入ったのは午前2時頃でした。マラソンのスタート時刻は午前9時です。完走はほとんど諦めていたが、「早く寝て少しも体調を整えないと...」と思い眠りに就こうと思いましたが、しかし、初めてフルマラソンを走る不安、沖繩に来た興奮、そして心身にまとわりつく疲労感の為に全然眠れませんでした。眠りも浅く少し寝たなどと思っ時計を見たら午前5時、それからベッドの中で悶々として沖繩のまだ暗い朝を迎えました。

うと思ひました。10kmだったら練習でいつも走っていましたし、今年に入って「湿原の風アリーナ釧路」でほとんど毎日練習して、雪が積もってない時は屋外でも走っていました。おおよそ走った距離は250kmです。テレビの「深いイイ話」(司会・島田紳助)で聞いた川柳(今まだどれだけ走ってきたか、残りはいくらか四十二キロ、高橋尚子)を思いだして、フルマラソンの距離をとって、ななく長く感じていた私の心が軽くなりました。また、旅行会社の人からは、「このツアーを北海道から参加して沖繩までたどり着けたのは私一人だとも聞き、この地に来られなかつたランナーの事を思えば、今ここにきてスタート地点に立てる幸せを感じていました。」「スタートの合図が鳴った。参加者が1万人近いので他のランナーを掻き分けて走るの難い。到着が遅れた為に前日のコースの下見をしていないので、ペース配分や上り坂下り坂のアップダウンが全然分からなかつた。」「と10kmは走ろうと頑張った。」「エイサー」で送り出されたスタート地点から沿道の声援は42km途切れない。一人ランニングマシンやラニングコースで練習してきた私にはとても励みになった。色々な言葉の声援がオモシロイ。「がんばれ」「チバリヨ」「Good job(嘉手納基地の米軍)」「ウモオ(牛)」、また辛くなった時に沿道の三線や太鼓の音が元気をくれました。声援だけではなく5km毎の給水地点と別に、私設エイドではエアサロップス、マツサイジのサービス、ロッキのテープ曲などを流してくれたり、ポランティアの方々の、冷水、バナナ、レモン、みかん、乾燥梅、おにぎり、黒糖の差し入れ等々がとて有り難かつたです。

10kmは何か走りきりタイムも約1時間とかなかなか良い、疲れも体調もまだ大丈夫のようだ。もう後10km走ってみようと思ひました。それからの10kmはさらにアップダウンの多い難コースで辛かつた。途中でトイレに行きたくなり、沿道の人に途切れた僅かな区間に道端で立ちションしたり、膝が痛くて痛くて我慢ができませんでしたが、登り坂では決して歩かなくなつたし、下り坂では転がるようにして走りました。中間地点の20kmに達したとき、「もう半分走ったんだ、タイムも約2時間、もしかしたら出走出来るのでは?」と完走を諦めていた気持ちが少し元気かす米軍や沖繩警察の人達を追い越すたびに妙な喜びを感じて走っていました。しかし、30km地点に到着した時、残り10kmだと思ひましたが、それからの1km、1kmがもの凄く長く感じ、こんなに走っているのになかなか進まない。時間だけが過ぎていく。登り坂が辛い。だげと意地でも歩かない。下り坂でも足が言う事を聞かない、もつれて転びそう。膝が痛い、すくすく痛い。膝の痛みがピークに達し足が地面に着くたびに激痛が走って、膝がはずれるのではと思う位でした。ゴールまで残り数キロの地点で意識が薄れて来た頃、悪いことに曇りが少し晴れて沖繩の暑い日差しが照りつけて来ました。その時、頭の中に浮かんだのは、沖繩に比べると異国の様な酷暑の釧路での辛く苦しい練習でした。一歩ずつ足を動かしながらとか体を前に運び薄れる視界の中に沖繩県総合運動公園のゴールゲートが見えてきました。ゴールゲートをくぐった。「ゴール、した...」。2月22日(日曜日)、フルマラソン一般男子ゼッケンナンバー6051が順位2479位、タイム4時間54分41秒で走りきることが出来た。走り終わって会場で手渡され飲んだスポーツドリンクが美味しかった。疲れ果て地べたに倒れる様に坐っていた体の奥の方から素晴らしい高揚感が湧き上がってきた。いつもこのランナーズハイを味わう為に走ってきたんだよ。その後、会場の屋上でオリオンビールを飲み、たこ焼きを食べた。私の「おきなわマラソン」は終わった。練習してきた良かった。マラソン大会に参加して良かった。走り続けて良かった。沖繩に来て良かった。



▲スタート直後の9,010人のランナー



▲フィニッシュゲート



▶完走後の穴の開いたシューズと疲れ切った私の足

実録 感動!



涙の沖繩マラソン



Vol.2

薬剤部 高橋 道生

編集後記

政権交替となりましたが、医療をとりまく環境はどうなっていくのでしょうか。少しでも良くなることを祈るばかりです。

神経内科 津坂 和文

秋も深まってきました。今年は厳しい試合が続いています。最後まで諦めるな、コンサドーレ札幌!

薬剤部 梶原 徹

2016年のオリンピックが東京で開催されると、日本のスポーツが発展しように思います。日本でもオリンピックを!!

リハビリテーション科 田口 暢秀

今年のサンマは、大振り美味しくかったですね。何匹刺身にしたことでしょうか。

栄養管理室 秋林 千尋

夏が終わり秋が来ます。実りの秋を心待ちにしつつ楽しかった夏をふりかえりたいと思います。

7西看護師補佐 伊在井 妙子

かわらばんファンの皆様、遅い発行となり申し訳ありません。今年度も残り半年となってしまいました。かわらばん発行に力を尽します。

中央検査科 遊佐 純教

《患者の権利》

- 1.適切な医療を受ける権利
- 2.人権を尊重される権利
- 3.プライバシーを保障される権利
- 4.医療上の情報、説明を受ける権利
- 5.医療行為を選択する権利